

児童館がやってきた

「出前児童館」は11月10日、さんみらい多賀城イベントプラザ(STEP)で行われ、親子7組14人が参加しました。

市内子育て支援施設のすくっぴーひろば、鶴ヶ谷児童館、西部児童センターが3館合同で実施し、栗拾いの工作、大型絵本の読み聞かせやバルーン遊びなど、親子で一緒に楽しめる遊びでのびのびと身体を動かしました。

自己紹介遊びで保護者同士も交流し、コミュニケーションを深めていました。



史跡とスイーツを堪能

「多賀城スイーツウォーキング」は11月13日、多賀城政庁跡周辺で行われ、124人が参加しました。

2年後の2024(令和6)年に多賀城創建1300年を迎えるこのまちを、家族やグループで散策しました。

参加者は約4kmのコースを歩き、道中の多賀城廃寺跡や多賀城碑、多賀城跡などでは史都多賀城観光ボランティアガイドの皆さんから、史跡にまつわる説明を受けました。また、3カ所のスイーツ所では、市内菓子店のスイーツを味わいました。

多賀城の史跡とおいしいスイーツを堪能しながら、歴史のまちを巡りました。



ジャンルや世代を超えた音楽祭

「第41回多賀城市民音楽祭」は11月13日、市民会館で行われ、157人が鑑賞しました。

合唱(混声、女声)や器楽、吹奏楽のアマチュア音楽団体の12団体が出演し、童謡、歌謡曲、ポップス、クラシックなど幅広いジャンルの曲が披露されました。

どの出演団体もコロナ禍のため活動が制限される中、日頃の練習した成果を発表し、聴衆は大きな拍手を送っていました。

当日は、市内中学校美術部による作品展示会が併せて行われました。



ベガルタ仙台の選手とサッカーで交流

ベガルタ仙台の小畑裕馬選手が11月17日、本市を表敬訪問しました。

ベガルタ仙台は令和4年から宮城県内の各自治体をホームタウンとし、さまざまな地域活動を行っています。

市役所を訪れた小畑選手は、市長に2022シーズンの結果を報告しました。

その後、西部児童センターに移動し、放課後児童クラブの小学生たちと一緒にサッカーをして交流しました。児童たちは、プロのゴールキーパーとして活躍する小畑選手の華麗な動きに目を輝かせていました。最後に一人一人に丁寧にサインを書いて、来シーズンの活躍を誓いました。



食育で「つなぐ、つなげる。1300年。」

「令和4年度第3回認可保育所等栄養士会」は11月18日、母子健康センターで行われました。

多賀城創建1300年事業の一環として、古代米をはじめ本市の食材を使用した、「古代米香味味噌焼きおにぎり」、「北の都も温ったまる、すき焼き風煮」、「たがもん美味しいもんソテー」、「タガベジスープ」の4品を考案しました。

市内認可保育所の約1300人の子どもたちに地産地消で栄養満点の共通献立が提供されます。



秋の多賀城の風物詩が帰ってきた

「第3回たがじょう秋まつり」は11月23日、JR仙石線多賀城駅南口および北口、駅前公園で行われました。

「2022 たがもんおすすめ」「ふれあいフェスティバル2022」「悠久の詩都あかり2022」「第38回たがじょう市民市」の4つのイベントが3年振りに同時開催され、多くの来場者で賑わいました。

新米や新鮮な野菜をはじめとした食料品などの販売、郷土芸能の多賀城太鼓や多賀城鹿踊が披露され、まつりを華やかに彩りました。

夜には駅前公園に長さ60mのライトアップされた光のトンネルが出現し、来場者は幻想的な空間をカメラに収めていました。

市民の手で政庁南大路を彩りました

『多賀城創建1300年記念「闇によみがえる政庁南大路」』（多賀城・七ヶ浜市民活動団体等連絡協議会主催）は11月27日、多賀城政庁跡南側大路整備地区で行われました。

多賀城南門から政庁へ通じるかつての多賀城のメインストリートだった大路に、市民活動団体有志が手作業で光の装飾を施し、光の回廊を創り上げました。

来場者は、建設中の多賀城南門を背景に浮かびあがる幻想的な空間を、ゆっくり歩いたり写真を撮ったりしながら、思い思いに楽しんでいました。



ラ・フランスをいただきます

友好都市である山形県天童市の観光果樹園連絡協議会から12月8日、市立保育所の子どもたちに西洋梨のラ・フランスがプレゼントされました。

今年は豊作に恵まれ、ちょうど食べ頃になった大きくて丸いラ・フランスがおやつ時間に子どもたちに振る舞われました。

子どもたちは、つるつるとしたラ・フランスを手を持ち、甘くてみずみずしい果実をみんなで一緒に美味しくいただきました。

